

さんま通信



厚生中央病院だより 第39号 2014年

秋



高齢化社会に向けて

病院長 櫻井 道雄

秋の夜長、虫の音が心地よい季節となりましたが、皆様方、いかがお過ごしでしょうか。

さて、65歳以上の高齢者の割合（高齢化率）が、全人口の21%以上を占めると超高齢化社会と呼ばれますが、我が国はすでに2005年に超高齢化社会を迎え、2013年現在では高齢化率は25.0%、4人に1人が65歳以上となっています。さらに、戦後のベビーブームに生まれた団塊の世代（昭和22年～26年誕生）が75歳以上の後期高齢者になる2025年には高齢化率は30.3%に達し、75歳以上の人の占める割合も24.5%となる恐るべき超高齢化社会を迎えます。これを受けて、厚生労働省は「在宅医療介護あんしん2012」を発表し、平成25年度から「在宅医療の体制構築に係る指針」を提示するなど、在宅医療を推進し高齢者が地域で安心して暮らせる社会を目指すこととしています。

当院はこれまで、地域を支える急性期中核病院として「安心・安全」な医療の提供に努めてまいりましたが、今後更なる高齢化社会のニーズに応えるため、急性期後のリハビリなど在宅復帰に向けた準備を行う「地域包括ケア病棟」を本年7月に開設しました。

また、8月には目黒区の指定病院として「在宅療養支援病床確保事業」に参加するとともに、「在宅療養後方支援病院」の届出を行いました。これに伴って当院独自の「在宅療養救急ホットライン（医療従事者専用ライン）」を設置することにより、緊急時の入院を24時間体制で受け入れるシステムを構築し、目黒区のみならず広く地域の在宅（特別養護老人ホーム等の居住型施設を含む）医療を支援する体制を整えました。

病院完結型から地域完結型へ医療のあり方が大きくシフトする中で、従来の急性期医療としての機能を更に有効に生かし、当院が果たすべき役割を担ってまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。



目次 contents

高齢化社会に向けて..... 1

高齢者によく見られる、
痒みを伴う皮膚病について..... 2~3

第21回 健康セミナー を開催しました..... 4



目黒で野駆けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

高齢者によく見られる、痒みを伴う皮膚病について

皮膚科診療科長

竹村 卓也

痒みを伴う皮膚病は、たくさんあります。今回は、その中で特に高齢者に多い皮膚病について、お話したいと思います。

1. 皮脂欠乏性湿疹

- 病因** 人は加齢とともに皮膚の脂腺の大きさが減少し、皮膚の油成分が少なくなり、乾燥しやすくなります。それに加えて、石鹸使用などの生活習慣も加わり、皮膚の乾燥は悪化します。そのため、皮膚がかさかさし、痒みが起こります。
- 症状** 主に下腿を中心に、体幹四肢に皮膚のかさつきと、紅斑が出現します。乾燥する冬季に悪化する傾向があります。
- 治療** 保湿剤（油脂性軟膏）の外用療法が基本になります。痒みが強いときはステロイド軟膏外用療法や抗アレルギー剤内服療法を併用します。

2. 体部白癬

- 病因** 白癬菌という真菌（カビ）による、皮膚病です。いわゆる「水虫」の事です。「水虫」というと、一般の方は足の裏にしかできないと思われるかもしれませんが、皮膚であれば、体中どこにでもできます。高齢者の場合、糖尿病などを患っていたり、内科的、整形外科的疾患のため、免疫抑制剤を長期間投与されることにより、皮膚の免疫力が低下し、白癬菌が異常増殖しやすい状態にあります。また、上記でお話しました、「皮脂欠乏性湿疹」の治療のため、ステロイド剤を長期間外用することによっても、皮膚の免疫力が低下し、白癬菌増殖の温床となります。
- 症状** 体幹四肢、顔面、頭部に、環状の紅斑が出現します。紅斑には鱗屑（かさつき）を伴います。
- 治療** 抗真菌剤の外用療法が基本となります。

3. 皮膚カンジダ症

- 病因** カンジダという真菌による皮膚病です。高齢者で、おむつを装着されている方は、陰部、肛囲が湿った状態であり、排泄物による汚染の影響から、この部分に症状が出やすい傾向があります。また内科的疾患や外科的疾患のため、抗生剤を長期間投与されている場合、一般細菌が抗生剤で叩かれる反面、それまで大人しくしていたカンジダが増殖してしまうという、菌交代現象が起きることがあります。

症状 外陰部、肛囲に白苔、紅斑、鱗屑を認めます。口腔内にも白苔として出現することがあります。指間にもびらん、鱗屑としてよく出現します。体幹四肢にも、鱗屑、紅斑、膿疱として出現します。

治療 抗真菌剤の外用療法が基本となります。

4. 疥癬

病因 ヒゼンダニが皮膚に疥癬トンネルを作り寄生する病気です。激的な痒みがあり、伝染性が強いのが特徴です。高齢者の場合、高齢者施設で出現すると、施設内で爆発的に流行することがあります。診断がやや難しい事と、ステロイド外用薬の普及が、爆発的な流行の一因となっています。また、高齢者の中には認知症などが強く、自分の症状を周囲に訴えることが出来ないケースもあり、このことが、高齢者施設での疥癬の万延の要因となっていると推察されます。

症状 赤い小豆大の発疹が体幹四肢に出現します。特に外陰部、指間は好発部位です。手掌には小水疱が出現します。顔、頭に出現することは稀です。掻痒感は激的です。

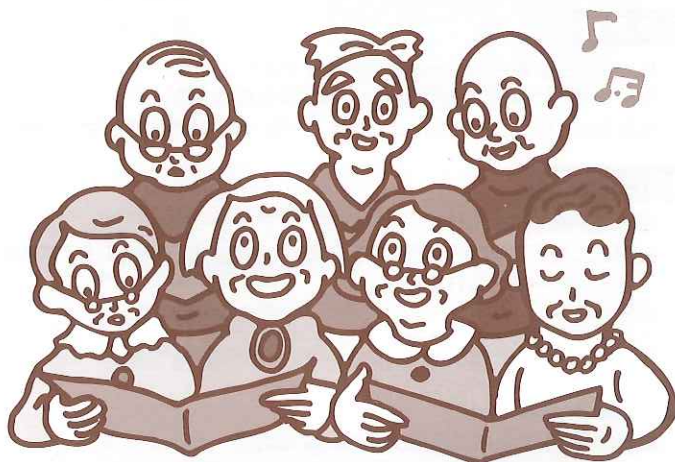
治療 イベルメクチンの内服療法が基本です。

5. 薬疹

病因 それまで使用していた薬剤が段々合わなくなってきた、薬に対するアレルギー症状が出現し、発疹が出現する病気です。内服薬、注射薬、外用薬、坐薬、湿布薬のいずれも薬疹の原因と成り得ます。原因薬は、発疹出現の1~2週間前から使用していた物であることが多いのですが、数年間使用を続けて問題なかった薬剤でも、薬疹を起こすことがあります。高齢者では、様々な病気に罹っている方が多く、それに対する治療薬を沢山使用しているケースが目立ちます。このことが高齢者での薬疹の出現頻度を高めていると考えられます。

症状 軽いものから重いものまで多種多様です。全身に左右対称性に紅斑が出現しますが、稀に固定薬疹といって1か所のみ出現するタイプもあります。症状が重い場合は、発熱を伴い、時に水疱、びらん、粘膜疹が出現することがあります。このようなケースでは失明したり、時に死亡することがあります。

治療 疑われる薬剤を全て中止することが、基本となります。その上で、それぞれの状態に合った治療法を選択します。



第21回 健康セミナー を開催しました

平成26年7月19日(土) 当院 講義室にて

「切らずに予防する脳卒中」をテーマに、脳神経外科 渡辺 大介医師が最新のカテーテル治療についてわかりやすく解説しました。60名程の方々が参加され、講演後は、希望者に対して診療科別に個別健康相談も実施しました。

今後も皆様方の健康管理にお役にたてるよう健康セミナーの充実に努めてまいります。



病院の理念

- ・私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

行動目標

- ・私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

患者さんの権利

- ・最良の医療を受ける権利
- ・病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・プライバシーが守られる権利
- ・転院の権利
- ・診療情報の開示を求める権利

患者さんの義務

- ・自己の療養に関して病院職員に協力する義務

